

令和6年度 田村市における取組

I はじめに

本市には、4歳児・5歳児が通う施設として、公立幼稚園3園、市こども園2園、私立保育園1園、私立認定こども園1園がある。その他に公立保育所が2園あり、主な幼児教育施設は計9園ある。市立の小学校は7校ある。

昨年度は、市内の公立幼稚園・こども園だけでなく、私立の保育園、認定こども園とも連携し、互いに保育を見合い、取組を共有しながら研修を進めたことが大きな成果であった。この数年、各園が進めてきた保育改善について保育参観を通して共有し合い、0歳児からの遊びを通じた学びは、その後の学びにどのようにつながっていくのかを実際の保育場面を通して確認した。

本年度は、本市の子どもたちの育ちや学びの具体的な姿を通して、「架け橋期の教育の在り方」について共有し、保幼小連携推進委員（公立保育所2名、公立園5名、私立園2名、公立小学校4名）を中心として、架け橋期のカリキュラム作成に着手した。

II 幼児教育の質の向上に向けて

6/11(火)

滝根保育所市内公開保育

(0～3歳児)

内 容：遊びを支える保育環境の工夫

参加者：公私立園 17 名



<環境構成の工夫例>



<事後研修会の様子>

県によるモデル地区指定以前より0歳児からの遊びについて研修を深めてきた本市では、架け橋期だけでなく未満児の「やってみたい」につながる環境構成や援助についても検討や情報共有を継続している。

今回の公開保育は、当初園内研修として実施する予定だったが、市教委担当から保育所長に依頼し、公開保育として実施していただいた。その結果、私立園からも複数の参加があった。参観後には参加者が滝根保育所の保育者に対して、環境構成等について質問をする姿が見られた。

指導主事からは以下の助言があった。

- ・ 環境面：暑くなる季節であるが、様々な所に日陰（木陰、テント）があり、涼しい環境の中で好きな遊びに取り組むことができていた。
- ・ 援助面：子どもの発達段階に応じた関わりがなされていた。特に3歳児は、友達と物の取り合いをした子どもに対して、すぐに仲裁するのではなく、子どもの気持ちを代弁したり、正しい関わり方を教えたりする援助が見られた。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

4/24(水)

保幼小連携推進委員会①

都路こども園・都路小学校市内公開

保育・授業(0~5歳児)(1年生)

内 容:

【午前】公開保育・授業参観

【午後】保育・授業に関する協議

組織づくり・年間計画確認

架け橋期のカリキュラム作

成に向けての協議。

参加者: 保幼小連携推進委員 13 名



<自分たちで場の設定をする1年生>

6/10(月)

保幼小連携推進委員会②

内 容: 架け橋期のカリキュラム作

成に関する研修・協議

参加者: 保幼小連携推進委員 13 名

7/9(火)

大越こども園・大越小学校モデル地区

公開保育・授業(4,5歳児と1年生)

内 容:

【午前】幼小合同保育・授業参観

【午後】グループ協議

参加者: 市内参加者 31 名

市外参加者 48 名



<保育者・教員による事前打合せの様子>

こども園では、今年度から0~5歳児が園内を自由に動き回り、主体的に遊ぶことができるよう環境を整えたことで、異年齢児との関わりがさらに深まっている様子が見られた。教室だけでなく、移動をする廊下にも、体を動かしたくなる環境構成が随所に見られた。

小学校では1年生の体育科において、友だちと協力しながら場の設定をする姿が見られた。生活科単元の学校探検の導入では、こども園時代から知っている先生がいたり、前年度からの交流を引き続き行ったりすることにより、子どもの学習に対する安心感が生まれていることがうかがえた。ものと人それぞれの環境構成の大切さを学んだ。

午後の研修では、本市の目指す子どもの姿を「主体的に学び、表現する子ども」とすることとし、共有した。この姿の実現に向けて、田村市版架け橋期のカリキュラム作成に着手することを含む年間計画の確認をした。

「架け橋プログラム実施の手引き」に示されている様式を使用してカリキュラム作成の演習を行った。実施してみると保育者と小学校教員の「遊びや学びのプロセス」「環境構成・環境づくり」に関し、特に相違点が多いことを改めて実感した。

指導主事からは以下の助言があった。

- ・幼小の先生同士が実際に話し合うこと
- ・対話を通して、互いの具体的な取組や子どもの姿を共有することが大切である

会議後に委員から「架け橋期のカリキュラム作成は、思ったより難しい」という意見が多数あったため、今後の推進委員会でも継続研修が必要であることを確認した。この回以降の推進委員会では、保育・授業参観で見取った子どもの姿から架け橋期のカリキュラムについて具体的な検討と作成を継続していくこととした。

7/18(木)

宮城県白石市視察（先進地視察）

内 容：架け橋期のカリキュラムに
ついての情報収集

参加者：保幼小連携推進委員 4 名

9/13(金)

保幼小連携推進委員会③

内 容：架け橋期のカリキュラム作成

参加者：保幼小連携推進委員 13 名

10/24(木)

船引南幼稚園・船引南小学校モデル
地区公開保育・授業

（4, 5 歳児と 1 年生）

内 容：

【午前】幼小合同保育・授業参観

【午後】グループ協議

学習院大学 教授

秋田喜代美氏による講演会

参加者：市内参加者 25 名

市外参加者 63 名

11/26(火)

保幼小連携推進委員会④

（田村市教職員研修を兼ねる）

常葉幼稚園・常葉小学校市内公開

（5 歳児）（1 年生）

内 容：

【午前】5 歳児の保育参観

小学校教科学習の授業参観

【午後】「学びをつなぐ」保育者等の
援助・環境構成の工夫につい
ての協議会

参加者：保幼小連携推進委員 13 名

市内園・小・中教員 3 名

第 2 回目のモデル地区公開保育・授業は、併設園で実施した。普段から園児が小学校に出向き集会活動を行っている。

当日に向けての経緯は以下のとおりである。

○ 9/5(木) 幼小交流活動①・打合せ

指導主事から、交流活動では、幼児教育と小学校教育の共通点に着目すること、その上で主体的な活動（遊び）という視点で内容を検討する必要があるという指導助言を受けた。幼小担任同士で日常的に話し合っていくことの重要性を確認した。

○ 9/20(金) 幼小交流活動②・打合せ

○ 10/17(木) 幼小交流活動③・打合せ

公開当日は、運動遊びと秋の自然物を使ったおもちゃ作りを行った。幼小混合のグループでの活動であったが、子どもたちがやりたい動きや素材を選択する機会が保障されており、主体的に取り組む姿が見られた。交流活動を通して指導者が話し合いをすることで、相互理解にもつながった。

これまでの推進委員会同様、午前中の保育・授業参観での子どもの姿を共有しながらカリキュラム作成を進めた。本研修会は田村市教職員研修に位置付けており、推進委員ではない教員の参加もあったため、架け橋期のカリキュラムの目的である「幼児教育の特性に関する認識の共有」を再確認した。協議は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点にすることを予め確認し、10 の姿に照らして話し合いを進めることができた。環境構成・援助の工夫については、田村市版カリキュラムに例示されているものが多くあった一方で、まだ例示されていないものについては反映するため、全体で意見を共有した。家庭や学校運営協議会との連携、保幼小中一貫教育に係る取組については、各中学校区の特色を活かし地域単位で作成していくことを確認した。

1/30(木)

保幼小連携推進委員会⑤

滝根幼稚園・滝根小学校市内公開保育・授業(4, 5歳児)

(5歳児と1年生)

内 容:

【午前】主体的に学び表現する5歳児の遊びと小学校教科学習のつながりを視点とした保育・授業参観

【午後】子どもの姿(育ち)から主体性・表現力を育むために取り組ませたい活動、環境構成や援助についての協議
架け橋期のカリキュラムに関する協議

参加者: 保幼小連携推進委員 13名

3/27(木)

保幼小連絡会

内 容: 幼児の実態と情報の共有

参加者: 年長児担任・新1年担任
16名

前半の保育参観では、子どもたちの主体性を大切にした保育が展開され、一人一人の子どもたちが自分のやりたい遊びに思いきり取り組む様子が見られた。

後半の5歳児と1年生との交流活動では、1年生がお店屋さん、5歳児がお客さんになり、お店屋さんごっこを楽しんだ。遊びと表現活動をする場と時間が十分に確保されていた。売り買いのやり取りだけでなく、各お店にワークショップのコーナーがあり、5歳児が小学生に教えてもらいながらおもちゃ等を作る場が設定されていた。感想発表では小学生10人、幼児5人が挙手して発表。手を挙げた子どもたち全員に発表の場が保障されていた。



<積もった新雪で雪遊びをする様子>

Ⅳ おわりに

本年度の成果としては次のことがあげられる。

(1) 幼児教育の質の向上に関して

○ ふくしま幼児教育研修センターの研修支援では、各園の保育を参観後に指導助言を受けることができ、実態に応じた環境構成や援助について具体的に学ぶことができた。

また、モデル地区での公開保育に向けた活動計画や内容についての支援では、幼小連携についての意義や目的について学ぶことで、連携の意義を十分に理解できた。さらに、これまでの取組についての振り返りから「継続して取り組むこと」「改善が必要なこと」について具体的に指導を受けることができ、保育・授業計画をたてる際に大変参考になった。

(2) 幼小連携の充実に関して

○ 本市の目指す子どもの姿を「主体的に学び表現する子ども」と保幼小連携推進委員会において決定し、推進委員を中心として、田村市版架け橋期のカリキュラム作成に着手し、試案を作成することができた。

- カリキュラム作成を複数回に分けて行ったことで、保育者と小学校教員との間で相違点があることを実感できた。特に相違点が多くある2つの視点（「遊びや学びのプロセス」「環境構成・環境づくり」）について、実践的な話し合いを重視していく必要があることが分かったので、その後の架け橋期のカリキュラム作成については、有意義な話し合いを行うことができた。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として協議を進めたことで、10の姿に照らして話し合いを進めることができた。また、テーマを設定し共通の視点での保育・授業参観をすることは、子どもの姿を見取る力の向上につながった。

(3) その他

- 架け橋期の教育の在り方について、ふくしま幼児教育研修センターによる研修支援や指導・助言を年間を通して受けたことで、その目的や意義についての学びをさらに深めることができた。また、こうした研修支援は、幼児教育についての理解をより深めたいという意欲を高め、各種研修に能動的に参加する教職員を増やすことにつながった。



<研修支援の様子>

次年度については、次のことに特に注力していきたいと考える。

(1) 幼児教育の質の向上に関して

- 地区内での公開保育・授業の開催と園内研修を継続する。

(2) 幼小連携の充実に関して（主に架け橋期のカリキュラム作成について）

- 「表現できる子ども」の育成に向けた視点が不足している。表現できる子どもを育むための配慮に関する環境構成の工夫の具体例について検討する。
- 「言葉による伝え合い」につながる力の育成方法の明確化が必要である。5歳児の始めと終わりで育みたい力を明確にするとともに、そのための活動・保育者の援助方法を整理、検討、実践していく。
- 小学校段階での教師の関わりについて具体例の充実を図る必要があるため、小学校とのさらなる連携強化を図り、継続して意見を収集し改善につなげる。

(3) その他

- 教育の一貫性や連携の強化を図るため、中学校区ごとに田村市版架け橋期のカリキュラムに加除修正をして、地域ごとの実情に合った教育内容を展開する。また、校区内での園・小学校・中学校間での合同研修や合同会議を充実させていく。